

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	倉敷学園	公表日 2025年3月17日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	24	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨の日の午後は午睡部屋があると活動制限がある ・ のびのびと走り回る、長距離を歩く等、体力増進や発散できるような場所や活動は必要 ・ 時間事の割り振りや子供を分散して使用 	<p>次年度は少し運動活動を増やすプログラムを検討しております。こどもらしく楽しくおもいきり体を動かしてもらえるように考えています。また、庄地区の認定こども園や保育園との交流を検討しております。そちらのグラウンドでの交流もできたらと思っています。今年度と比べて走りまわれる機会を増やしていきます。</p>
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準的には適切だが、もう少し職員が多ければ子供の話を後1分余分聞いてあげられるとか、座って一緒に遊べるとか、出来るなぁと思う ・ 職員のヘルプが常態化していることから足りていないと思います ・ それぞれの児に特性があり、配慮すべき点が多くある。療育の質を落とさないためにも預かりではなく適切な療育を提供するためにも職員は必要である。 ・ 人数ではなく行動特性に合わせてクラス分け、職員配置をしてほしい(活動設定が職員都合になりやすいため) ・ 慢性的な人員不足が続いている ・ 基準は満たしているが、特性の強さや個性が強いお子さんが多いと難しいのではないかと感じる。 ・ 規定範囲で問題ないという見解は理解するが、実情は「個々のプランに応じた支援」より「安全面に配慮した見守り」のほうが大きい印象がある。人的余裕があると、もう少し個々児に対しての課題に向き合える余裕がうまれるのではないかと感じるため、支援員の確保が急がれる。 ・ 職員の急な休み等で他事業所からヘルプをもらっていることも多い。 ・ 4対1が基準だが、実際の療育活動中や場所移動する時間は人手が必要。支援ではなく、見守りになってしまう現状。 ・ 職員不足な日が時々ある。 ・ 他のクラスからの応援 ・ 看護師を保育士1人としてカウントするのならば、保育士としての学びの場を設けるべき。 ・ 利用児も危険にさらされることがある。看護師も保育を突然求められても大変だと感じる。 ・ 慢性的な職員不足について処遇改善すべき ・ 規定人数は満たしているが、実働で見ると人員不足である。専門職、きらりやみどり、児発等が入って支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員数については国が定める基準ではこども4人：職員1人です。1クラス10名定員ですので最低3人の職員が必要になります。その上で、昨年度は1クラス5人体制（こども2人：大人1人）でしたが、今年度は4人体制（概ねこども3人：大人1人）になっています。昨年度より職員数が少なくなりましたが、その分各クラス間での協力は昨年度より増えています。その為こども達はたくさんの職員と接することができています。また、業務改善にも取り組んでおりこれまで以上にこども達への支援時間を増やしていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	31	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ ただ建物自体が老朽化していたり補修しないといけないところは早急に修理してほしいです ・ 利用児の様子、姿に合わせて、定期的にクラスの構造等を現場で変えながら支援にあたっている。 ・ ランチルームや療育室（活動部屋）が分かれているのはわかりやすい ・ 視覚支援がある ・ 課題 廊下に歩行や移動のための装備品が置かれている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物は築15年を経過しておりこれまではできる限り職員で修繕対応をしてきました。今後は業者にも依頼をしていくことで修繕のスピードを上げていきたいと思っています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	27	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境づくりは工夫されていると思いますが人手等が足りなく清掃に関しては十分なものが行われているようには思いません ・ 何年も使用し続けているものがどうしても劣化してしまう。物品の改善は都度必要である。 ・ 感染症流行時には、消毒の仕方を変えるなどしている ・ 清掃専門の職員がいる ・ 廊下、ロッカー上等に教材や玩具が置かれており、活動に集中できない場面が多々ある。 ・ 日頃の清掃という視点以外で、見た目の悪い部分は購入して新しくするなど、保護者や外部訪問者からの目線で見ると気になる箇所は多い。 ・ 廊下の物や棚の上を片付けてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃については清掃担当の嘱託職員が2名います。質の向上に向けて指導していきます。 ・ 旧施設時代の物品もあるため、著しい劣化や破損等がある場合には更新していきます。 ・ 5S活動に取り組んでいます。徹底までは出来ていません。次年度からはまずは意識を持ってもらえるように声掛け等始めていきます。 ・ 環境整備の日清掃箇所を明確にして清掃、整理整頓に努めます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	30	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラスの中に集団で過ごすエリアと個別のエリアを数カ所設けている。 ・ 個別スペースが必要なお子さんが多くても、グルーピングをして、使用が重ならないようにしている ・ 廊下を使用しなければいけない時もある子供の特性に合わせてメンバーを決めて使用している 	

業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	28	3	・相談しやすい環境である。毎月会議がある	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	31	0	・結果が共有されている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	28	3	・半年に一度面談がある。 ・会議の場はあるが、もう少し嘱託職員の意見が聞きたい。	・嘱託職員の勤務時間が利用児が降園する時間と同じである方が多いため意見を対面だけでなく間接的にでも聞き取れるようにします。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	30	1	・第三者評価を行っている	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	27	4	・もっと多くあっても良いと思う ・もう少し研修の機会が欲しい ・現場で働く、子どもに対しての知識向きであるかは不明 ・嘱託職員もできる限り参加して欲しい	研修内容や研修時期、時間、対象者等について法人研修だけでなく、職員からの希望も聞き取りながら必要な研修を企画していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	30	1	特になし	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	30	0	・ニーズシートを参考にしている ・こちら辺は詳しいことは分かりません	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	31	0	・クラス会議等で検討されている。 ・こちら辺は詳しいことは分かりません	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	30	1	・こちら辺は詳しいことは分かりません ・子どもの安全を第一に考えると、職員が少ないなどの状況によって特定の課題に取り組めていないこともある。 ・あまり確認する機会がない ・心がけているが十分とは言えない。 ・一概にできているが、前述のとおり、支援員不足の状況では支援より見守り（厳しく言えば、子供の行動を制止、監視）にとどまることもあるため、職員体制での改善は必要。 ・クラス会議や職員会議 また日々発達の経過など情報共有している ・取り組んでいるが、人員不足で難しい場面もある。	・職員配置について2を参照ください。 ・クラス会議、職員会議で共有できる場を設けています。 ・全クラス、ランチルームとトイレに個別支援プランを掲示、更新していきます。 ・専門職とも共有しており、園内のリハビリ内容にも組み込まれています。 ・他クラスの職員と協力しながら取り組める方法を、定期的に話し合い共有していきます。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	29	2	・こちら辺は詳しいことは分かりません ・インフォーマルが多い	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	31	0	・こちら辺は詳しいことは分かりません	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	29	2	・こちら辺は詳しいことは分かりません ・個人で行っている事が多いのではないかと ・正規職員のみで決めている	・クラス全体で目標を設定する機会を、クラス会議の中で設けていきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	28	3	・こちら辺は詳しいことは分かりません ・少ない職員で安全に見ることが最優先されているため、療育となっているか不安がある。 ・大まかな活動は固定されがちである。しかし具体的な実施内容については、月毎等固定化させつつ変化させながら姿を追うようにしている。 ・職員状況によっては活動内容が限られることがある。 ・現状、人員不足であり不十分だと感じる	・職員配置について2を参照ください。 ・配置人数で取り組める活動の中で、発達の段階に合わせて内容を取り決めていきます。 ・予定している内容を実施できるような職員配置をしています。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	31	0	・こちら辺は詳しいことは分かりません ・日々の活動はケアコラボ、特に課題が認められた場合は申し送りにも記録する	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	29	2	・こちら辺は詳しいことは分かりません ・日々活動内容をボードで共有 ・毎日ではない	・毎日打ち合わせをする時間を決めて実施できるようにします。ボードの記載方法を統一していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	27	4	・こちら辺は詳しいことは分かりません ・退勤時間がそれぞれ異なるので話し合う時間がなかなか取れない。	・振り返りの時間を設けていきます。気づきが共有できるように、クラスノートの活用方法を統一していきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	28	3	・こちら辺は詳しいことは分かりません ・日々の活動はケアコラボ、特に課題が認められた場合は申し送りにも記録する	

	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	31	0	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・クラス会議で見直している	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	31	0	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・会議等にクラス職員が出る機会を増やしても良いと思う。外部との関わりを一般職員ももちたい。	・希望がある時以外はクラス担任に参加していただいています。参加できる機会を設けていきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	31	0	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・リハビリ見学に行っている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	28	3	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・インクルーシブな交流は少ない	・1を参照ください
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	30	1	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・就学資料を作成している	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	16	5	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・法人の中では情報共有がある程度はできていると思われるが、地域の他のセンターとなると、連携がどこまでされているのかよくわからない。 ・他のセンターの見学に行きたい ・自立支援協議会に参加、ペアトレ等を一緒に ・分からない ・もう少し連携を取りたい	・令和6年度から児童発達支援センターの中核機能の発揮を促進する観点から、専門人材を配置して地域の関係機関と連携した支援の取組を進めるなど、4つの機能をはっきりして地域の障害児支援の中核的役割を担うことになった。センター合同勉強会や倉敷学園独自の勉強会を開催しているが周知徹底が出来ていないため、都度伝えていく。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	20	1	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・外部研修への参加はあまりできていないため、興味のある研修への参加は積極的におこなっていききたい。	・今年度も外部研修の案内、参加は取り組んできた為、次年度も継続して取り組む
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	16	4	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・外部研修への参加はあまりできていないため、興味のある研修への参加は積極的におこなっていききたい。	29参照ください
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	19	12	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・保育園は、敷地内にあり、行事などで職員の出し物と同じ空間で見る程度の交流であって、子供同士と一緒に遊ぶ、関わるなどの交流になっていない。 ・花育やクリスマス会、とんどで同じ空間共有がある程度である。 ・インクルーシブな交流はほとんどない ・法人内（敷地内）保育園との関わりであればある。 ・同じで空間で活動を行うことはあるが、交流自体はない。 ・年間行事に共同実施 ・法人内ではある	・1を参照ください
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	31	0	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・ケアコラボにて共有している	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	31	0	・ここら辺は詳しいことは分かりません		
保護者への説明	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	30	1	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・懇談を行っている ・各クラスで丁寧に対応できている	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	31	0	・ここら辺は詳しいことは分かりません	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	31	0	・ここら辺は詳しいことは分かりません	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	31	0	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・悩みを打ち明けづらい保護者への対応について不安がある。	・クラスで抱え込まず、倉敷学園全体で対応できる体制作りをしていきます。不安がある際は職員間で相談できる関係作りに努めます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	31	0	・ここら辺は詳しいことは分かりません	

明等	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	31	0	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・担任だけで対応できないような悩みは、管理者に報告し、連携して対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	30	1	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・多忙でケアラボを見えていない保護者への対応が職員によって異なると感じることがある。	・統一した対応ができるように、ペースを決めて共有していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	31	0	特になし	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	31	0	・ケアラボの使用	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	31	0	・ここら辺は詳しいことは分かりません ・栗坂フェスティバルを開いている ・栗坂フェス、女子会など	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	31	0	・保護者を交えての訓練の機会は少ないかもしれない。	・保護者からも引き渡し訓練についてご意見を頂いておRます。次年度は引き渡し訓練に向けて準備をしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	30	1	特になし	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	31	0	・フローチャートを作成している	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	31	0	・未提出の場合では給食提供はすべきではないと思う。命にかかわる為。	・保護者ヘルールの周知徹底をしていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	31	0	特になし	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	31	0	特になし	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	31	0	職員要因となる部分のヒヤリで、児の特性把握はもちろんのこと、背景にはどうしても人員不足という観点で「十分に見る余裕がなかった」「その場を見守れる適任者を配置できていなかった」という発生事例もあるのではないだろうか。	・人員については1を参照ください。 ・ヒヤリ事故についてご意見通りの事例もあると思います。しかし職員がいたとしてもヒヤリ事故は発生するので、体制を見直すこととKYT訓練や気づきの視点を事業所で取り組んでいく
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	31	0	特になし	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	31	0	特になし		